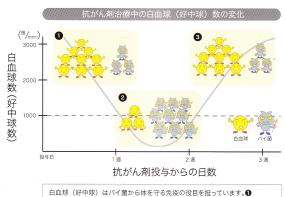
抗がん剤治療では、どのようなトラブルがお口の中に起こるのですか?



白血球(好中球)はバイ菌から体を守る免疫の役目を担っています。

抗が利治療をうけると白息が減ってしまいバイ菌が増えやすくなる(感染しやすくなる)ことがあります。

しかし、2~3 週間すると白血球数は元にもどります。

●

抗がん剤治療は、がん細胞を破壊するのと同時に正常細胞にもダメージを与えます。口の中の粘膜など分裂の早い細胞が影響を受けやすいため、2~3人に1人は口内炎などの口腔合併症が現れます。

また、抗がん剤治療中は、バイ菌などの異物の侵入を防御するしくみ、すなわち、『免疫のチカラ』が弱る時があります。すると、普段はなんともないお口のなかのバイ菌が血液に感染を引き起こすことがあります。

これらのお口のトラブルは、お口の衛生状態が悪い人に起こりやすく、免疫のチカラがある時期から予防的な口腔ケアをすることで、その症状を軽くすることが出来ます。

口腔粘膜炎(口内炎)



口腔粘膜炎は、抗がん剤投与開始後約4~6日程度で発症します。

口腔粘膜炎が起こると、その傷口から細菌やウイルスが入り、感染しやすくなります。

また、抗がん剤は免疫力(白血球、中でも生体防御に重要な役割を果たしている好中球)を低下させるため、口の中の常在菌のうち感染の原因になる悪い菌が繁殖し、健康などきよりずっと感染しやすくなります。

対策

(1)口の中をきれいに保つ、(2)口の中を乾燥させない、そして(3)粘膜炎の痛みに、痛み止めを確実に使うこと、この3つが基本になります。

味覚障害

抗がん剤治療を受けた方の60パーセントに、味覚が感じられない、苦味だけを感じるなど、何らかの味覚障害が起こります。 これは、味を感じる味蕾細胞の障害と口腔乾燥による唾液分泌の減少によると考えられます。治療終了後、3、4週間たつ と、味覚が戻ってくることが多いといわれています。

対策

口腔内を清潔にして、亜鉛の豊富な食品やサプリメントを摂取しましょう。

歯肉出血

抗がん剤が原因で血液の凝固に問題が生じる結果、出血が起きてくる場合があります。

歯周病にかかっている場合、原因もなく出血が起こったり、食事や歯磨き、歯間掃除などの刺激によって出血が起こったりします。出血は軽度の場合もあれば重度の場合もあり、特に歯と歯ぐきの境界部分や口腔内の潰瘍部分から発生してきます。また血球数が一定値を下回ってくると、歯ぐきから血が染み出てくることがあります。

対策

定期的な口腔ケアの継続で、出血を悪化させるおそれのある感染症を予防することができます。 血球数が低下している患者さんに対しては、局所の出血を抑えるパックがありますので歯科医師にご相談下さい。

口腔感染症

歯周病菌による細菌感染症、ウイルス感染症や口腔内の細菌バランスの変調によるカンジダ症など、口腔粘膜が損傷を受けたり免疫系の機能が弱まったりすると、これらの感染症が発生しやすくなってきます。

対策

口腔ケアをおこなうとともに、カンジダ症予防には、入れ歯の洗浄も必要です。 症状に応じて、医師または歯科医師から内服薬または外用薬の処方が必要となります。

引用:抗がん剤治療を受ける患者さんの口腔ケア サンスター(株) 静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科大田洋二郎 がんサポート情報センター 国立がんセンター中央病院消化器内科安井久晃ら